

《入選》

友人の大切さ

彦根総合高等学校 1年

中井 なかい 星輝 ほくと さん

僕は友人関係について自分の想いを書きます。僕は友達や友人関係のことで日々悩んでいました。僕は中学のころから友人との接し方が分からなくなり一時期友人と距離を置くようになつていました。思春期というのもあつたのか自分の中で深く考えてしまったり、そのことで悩むようになりました。

友人と話したりするのが嫌いというわけではなく、ただ、「友達」を心の中で信じることができず疑心暗鬼になつていった。「どう思われているんだろう」「もし嫌

われたら」ずっとこんな気持ちでふるまつていて自分自身のことも分からなくなつていきました。日々病んでばかりで前を向けない毎日でした。ずっと考えて行動にうつそうと思つてもそう上手くはいかず、テンパつてしまうようになつた。ずっと変わりたいたいと願つていた。でもいざ実行しようとしてもなにもできない自分が悔しかった。もう考えることも疲れてしまつていた時一緒に帰っていた友人が声をかけてくれました。彼とも距離をおいていてあまり話さなくなつていました。「どうしたん？最近元氣ないけど。」その時は友人に悩みを話そうかためらつていました。友人に辛い相談をして不満を抱えさせるのは良くないと思ひ笑顔で振る舞おうとした時、じつと見つめて言いました。

「なにか悩んでる？俺でやったら話を聞くよ。」と言いました。とても嬉しかったです。心が軽くなった気分でした。辛かったことを心の中にためていた悲しさが少しずつ消えるような感覚。それから毎日一緒に考えてくれてとても嬉しかったです。こんな自分に正面からむきあつてくれて一緒に考えてくれた感謝です。時がたつて卒業の日その友人と別れの日。別々の道へ行く時です。正直不安でした。あの時助けられてなかつたらと思うと、変われていなくなつたと思います。身近にいたとしても気づかないことだつてあります、ずっと一緒にいれるわけではない。だからこそ共にいる時間を大切にしたいです。

僕も彼のように友人に手を差し伸べ、友人と毎日楽しく過ごしたい。